

言語聴覚療法

S P E E C H T H E R A P Y



● ● ● 言語聴覚療法 = “ことば”のリハビリ

理学療法士や作業療法士はもちろん、医師や看護師とともに、チームで連携を図り、“はなす・きく・たべる リハビリ”をする専門職です。

● ● ● 言語聴覚障害って、どんなもの？

様々な病気があるように、ことばによるコミュニケーション障害にも様々な種類があり、小児から大人と多種多様な障害です。

リハビリの対象となるのは、大きく分けて、聞こえの問題(聴覚障害)、ことばの障害(失語症、発達の問題からくる ことばの遅れ、等)、声や発音の障害(音声障害、構音障害)、直接的・間接的にコミュニケーションに影響する記憶や注意・認知などが障害される高次脳機能障害などがあります。また、声や発音の障害に伴って、食べること・飲み込みの障害(嚥下障害)も起こる場合があります。

これらは一見、外からは分かりにくいですが、うまく意思疎通出来ない、ことばで思いが通じないというのは、社会生活をおくる上で深刻な問題です。

● ● ● 言語聴覚士:ST

Speech-Language-Hearing Therapist 通称STと呼ばれます。

STは、このような障害をお持ちの方に対し、必要な検査や評価、訓練・環境調整を行い、少しでもコミュニケーションしやすくなり、患者様の生活や立場に応じてコミュニケーション範囲を広げ、その人らしい生活ができるよう手伝いをしています。また、食事の際にムセてしまい、食べ物をうまく食べられない方(嚥下障害)へのリハビリも行っています。

飲み込みのリハビリは、とても慎重に行います。水を飲んでムせるというのは、誰しもが経験していると思います。人は、ムセて気管や肺に異物が入らない様、防御していますが、飲み込みの障害がある場合は、その防御機構がうまく働かない場合が多くあります。このため、食事の量やペース、食事の内容、姿勢など、医師や看護師、他リハビリスタッフと相談しながら開始します。

● ● ● 対象疾患

当院では、主に脳血管疾患(脳梗塞や脳内出血、など)や頭部外傷後の後遺症などをお持ちの方を対象として、リハビリテーションを行っております。特に成人(失語症や構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害)の方が多くいらっしゃいます。